



高山から初日の出を拝むイベント

初日の出に無病息災を祈る

地域おこし協力隊の河村将芳隊員が企画した「そうだ初日の出を見に行こう」が1月1日(金)、青島島地区の高山で行われました。
地区住民の手で登山道整備を実施している高山を、再び地域資源として活用していくことを目的に開催されたもの



▲厚い雲の上に初日が現れる

で、早朝6時に高山オートキャンプ場に集合した約40人の参加者は、懐中電灯を手に1.2kmの道のりを約30分かけて登頂。7時30分頃、厚い雲の上に太陽が現れると、参加者たちは初日に向かって今年1年の無病息災を祈念していました。



▲参加者の皆さん

仙崎市場と長門地方卸売市場で初競り

漁業と農業で長門を元気に

1月5日(火)、仙崎地方卸売市場と長門地方卸売市場で初競りが行われました。
仙崎地方卸売市場では、県漁協長門統括支店の藤田昭夫運営委員長が「安心安全で新鮮な水産物の供給を続け、長門市の元気を取り戻していきましよう」とあいさつ。競りが始まると新鮮な魚介類が



▲たくさんのイカが競りにかかる (仙崎地方卸売市場)

次々に競り落とされました。長門地方卸売市場では、あいさつに立った長門大津農業協同組合の小田保男組合長が「農業を取り巻く環境は厳しい中、安心安全な農産物を安定供給できるように取り組みます」と述べました。キク、ダイコン、カブ、キャベツなどが競りにかけられました。



▲新鮮な野菜などが競りに (長門地方卸売市場)

ながとふるさと緑化プロジェクト

自然による森の循環を学ぶ

市有林を活用した「森づくり」を通じて、自然による循環の大切さを学ぶことを目的に、12月21日(月)、俵山小学校で、同校の1・2年生と向陽小3・4年生の約20人が参加し「ながとふるさと緑化プロジェクト」どんぐりのポット苗づくりが行われました。

児童たちは、下関農林事務所職員からどんぐりの種類や植え方について説明を受け、山などで拾ったどんぐりを土と一緒に約300個のポットに入れました。苗は今後2年間児童たちによって育てられ、その後植林されることになっています。



▲ポットにどんぐりと土を入れる

小学生を対象に防犯教室

犯罪から身を守るために

小学生を対象とした110番・防犯教室が1月12日(火)、油谷小学校で行われ、3年生児童26人が警察官から指導を受けました。教室で警察のしくみや連れ去り事案について学んだ後体育館に移動し、木刀を持った不審者が校内に侵入したという想定で、担任の先生が110番通報を行う訓練を行いました。

ました。児童たちは侵入者と反対側の出口から避難し、先生と県警通信指令室とのやり取りを聞きました。
最後に、児童たちはパトカーや白バイに実際に触れ、乗って記念写真を撮ってもらうなど、普段触れることのない警察車両について興味津々のようでした。



▲大西市長から説明を受ける安倍首相 (中央)



▲教室では紙芝居により、連れ去り事案の危険性を説明



▲白バイやパトカーに触れる児童たち

安倍首相が俵山多目的交流広場に キャンプ招致の取組を視察

安倍首相が俵山多目的交流広場に

長門市がラグビーワールドカップ2019のキャンプ会場として名乗りを上げている「俵山多目的交流広場(俵山スパスタジアム)」を、1月10日(日)に安倍晋三首相が視察しました。

グラウンドや施設の整備計画について説明を受け、最後に大西市長がパスしたラグビーボールを、安倍首相は見事キャッチしました。
安倍首相は「俵山はキャンプ地に最適。招致に成功すると思いますね」と話したということです。

今年も豊作と豊漁に

1月17日(日)、約200年前から続くと言われる仙崎大日比区のだんど焼きが同地区のグラウンドで行われました。

シダの葉や各家庭から集められた正月のしめ飾り、書き初めが飾り付けられた高さ約8mのだんどに、年男・年女が点火し、地区住民約100人が

どんどの激しく燃え盛るようすを見守りました。

このどんどが山側に倒れればその年が豊作に、海側ならば豊漁になるとの言い伝えがあり、今年はずうと中間に倒れたため、豊作・豊漁両方がかなう1年になる、と喜びの声が上がりました。



▲山側、海側の中間に倒れたどんど

毎日農業記録賞・中央審査委員長賞を受賞

農業高校での思いを描いて

国内の「農」や「食」に関わる環境、「農村」への思いや体験の記録、提言などを応募する「第43回毎日農業記録賞・中央審査委員長賞」を受賞した、大津緑洋高校日置校舎生物生産科3年の藤山理穂さんが12月18日(金)、市長室を訪れ受賞を報告しました。

馬クラブでの苦労や、鶏ふんからリンを抽出して肥料化するプロジェクトの成功、牛の競り市で感じた命のありがたさなどが描かれている「私の農高ラブソング」農業高校満喫編」と題された藤山さんの作品は、約90編の作品の中から県内で初めて、第1位となる中央審査委員長賞に選ばれました。



▲将来は牧場か農業高校の先生として働きたい、と藤山さん

心のこもった弁当で健康に

栄養バランスのとれた食事の推進と安否確認を兼ねて、12月19日(土)、仙崎地区社会福祉協議会により、同地区に住む75歳以上の独り暮らし高齢者250人へ弁当配布が行われました。

仙崎公民館の調理室で仙崎婦人会が調理した弁当には、刺身や煮込みハンバーグ、ちらし煮などが詰められ、仙崎中学校の生徒が盛りつけを手伝いました。

福祉員による弁当の配布には中学生も同行し、中学生が「心のこもったこの弁当を食べて、健康に過ごして下さい」と手渡すと、受け取った高齢者は、「元気に過ごせるよういただきます」と話しました。



▲高齢者に弁当を手渡す仙崎中学校の生徒



▲心をこめて弁当を詰める

長門のPeople

おいしさの秘密は、素材へのこだわり。



吉富孝次さん

(吉富幸進堂 / 深川湯本門前区)

※仕事は お菓子の製造を担当しています。多くの人に「おいしい」と思ってもらえるように、季節に応じて材料の配合を変えたりなど工夫を重ねています。

※就職のきっかけは 実家の和菓子屋を継がなければという思いからです。高校卒業後、3年間県外のお店で修行を積み、帰ってきました。

※休日の過ごし方は 愛車を洗ったり、眺めたりしています。車は走るより、目で見て楽しむ方が好きです。

※長門市の好きなのは 水の質が良いところ。和菓子は水が命なので、あんなの仕上げりなどに違いが出ます。

※今後の目標は 修行で得た技術・経験を生かしながら、自分流のアレンジを加えて、新しいお菓子を生み出していくことです。

※最後に一言 素材にこだわり、既製品や添加物を使わない自慢のお菓子をぜひ食べてみてください。



熱血！新鮮力

両市の一層の連携を確認

下関市・長門市両市長会談

下関市と長門市の市長会談が1月14日(木)、下関市の次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」で行われ、中尾友昭下関市長と大西市長がサイクリイベントや交通体系、栽培漁業の推進などについて協議を行いました。

サイクリイベントについては、来年度第10回となる「ツール・ド・しものせき」の記念事業として、両市を巡回するコースを設定することで合意



▲中尾下関市長(右)と握手する大西市長

しました。長門市の大浜海岸周辺までを走る160kmのコースを新設、エイドポイントにおいて両市ならではのおもてなしを行い、交流人口の拡大と両市の連携を一層推進することを確認しました。

交通体系については、JR山陰本線の利用増を訴えるために共同制作された「JR山陰本線PR動画」が記者会見の場で初めて披露され、今後とも利用促進に努めること、また、山陰道「長門・下関間」の早期実現に向けた要望活動や啓発活動に取り組むことを確認しました。

栽培漁業の推進については、キジハタやアワビの栽培について、今後も協力し進めていくことで合意しました。

最後に中尾下関市長と大西市長が握手し、今後とも両市がさまざまな政策で連携していくことをあらためてアピールしました。